

# 学修成果調査

2026年3月23日(月)

外国語学部グローバルコミュニケーション学科

2026年度前期ガイダンス



## 育てたい人物像

①複数の言語の基本的な運用能力、②複数の地域の社会や文化を理解する幅広い知識、③他者と協働できる社会人基礎力を併せ持ち、グローバル化する社会の様々な分野で活躍できる人物を育成する。

### DP

#### 1.(知識・理解)

複数の地域の言語および文化・歴史・社会に関する専門的な知識を身につけている。

#### 2.(思考・判断)

複数の地域の言語や文化の知を生かして、問題を発見し、解決に結びつけることができる。

#### 3. (関心・意欲)

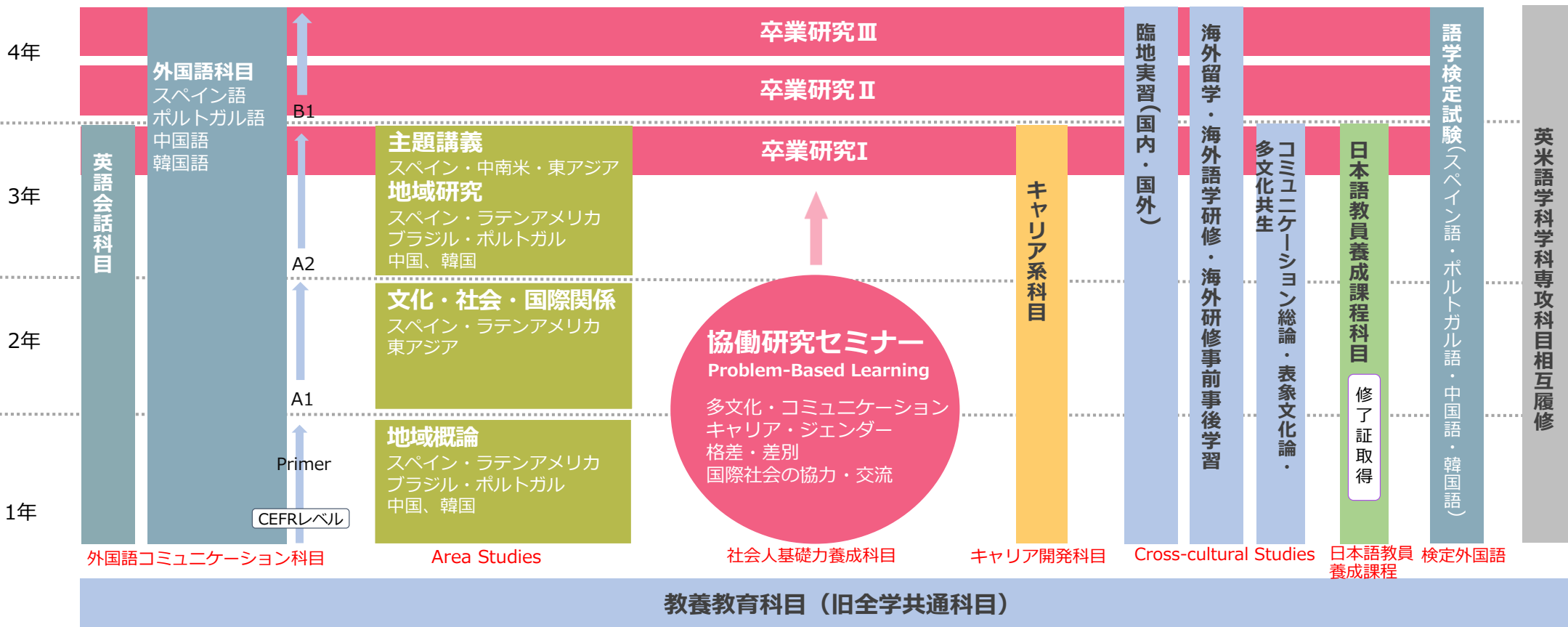
複数の地域の文化的・社会的な問題に広く関心を持つことができる。

#### 4. (態度)

国際化する地域社会に寄与する姿勢を身に付け、地域社会のニーズに応えることができる。

#### 5.(技能・表現)

複数の言語の実践的な運用能力を身につけ、それを活用できる。国際化する地域社会で働く上で必要な社会人基礎力や実務的なスキルを身につけ、それを活用できる。



# 学修成果調査

## (1) 調査目的

- 大学教育の質の向上に向けた PDCA サイクルを適切に機能させるために、個々の学生の学修到達度の可視化することが目的である。  
PDCA サイクル: Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)の循環
- 学生自身が自らの学修レベルを確認し、さらなる成長に向けた課題を認識できる。
- 指導教員や学部専任教員が、学生の学修状況を踏まえて指導や支援の方針を検討できる。

# DP達成度調査

## (2) 実施期間

2025年9月5日(金)、2025年度後期ガイダンス当日

## (3) 回答者数[%]

194名/284名 [68.3%]

1年生、2025年度入学、77名

2年生、2024年度入学、55名

3年生、2023年度入学、32名

4年生、2022年度入学(すでに卒業)、30名

ご協力ありがとうございました！

DP	目指す力	具体的な力	内 容	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	
知識理解	基礎的な知識を土台に、他者と議論することによって理解を深めることができる	基礎知識	文化・社会等に関する基礎知識の修得	全学共通・学部共通科目を受講し、多様な視点から文化・社会・自然に関する知識を十分に修得している。	全学共通・学部共通科目を受講し、多様な文化・社会・自然における知識の大部分を修得している。	全学共通・学部共通科目を受講し、多様な文化・社会・自然における知識の一部が修得している。	全学共通・学部共通科目を受講し、多様な文化・社会・自然における知識の修得ができていない。	
				4年	26.7%	63.3%	10.0%	0.0%
				3年	12.5%	71.9%	12.5%	3.1%
				2年	12.7%	50.9%	30.9%	5.5%
				1年	10.4%	57.1%	27.3%	5.2%
				全体	13.9%	58.8%	23.2%	4.1%
		専門知識	専門分野に関する知識の修得	学科の専門科目を受講し、専門知識と専門技術、実践的能力を十分に修得している。	学科の専門科目を受講し、専門知識と専門技術、実践的能力について、大部分は修得している。	学科の専門科目を受講し、専門知識と専門技術の一部を修得しており、アドバイスを受ければ実践的活用ができる。	学科の専門科目を受講しているが、専門知識と専門技術に興味がなく、アドバイスを受けても実践的活用ができない。	
				4年	16.7%	53.3%	26.7%	3.3%
				3年	28.1%	59.4%	12.5%	0.0%
				2年	16.4%	40.0%	41.8%	1.8%
				1年	10.4%	37.7%	48.1%	3.9%
				全体	16.0%	44.3%	37.1%	2.6%
		情報収集力	知識を深めるための情報の収集、整理・統合	必要かつ信用できる情報を、自ら進んで適切な方法で収集し、整理・活用できる。	必要かつ信用できる情報を、自ら進んで適切な方法で収集、整理できる。	必要な情報を自ら進んで適切な方法で収集できるが、信用性の低い情報も含まれる。	必要な情報を適切な方法で収集できない。	
				4年	36.7%	50.0%	13.3%	0.0%
				3年	25.0%	59.4%	15.6%	0.0%
				2年	23.6%	50.9%	25.5%	0.0%
				1年	20.8%	51.9%	24.7%	2.6%
				全体	24.7%	52.6%	21.6%	1.0%
		相互議論力	他者と議論し知識や理解の深化	得られた知識を土台に、他者と議論して洞察を深め、新たな結論を導き出せる。	得られた知識を土台に、他者と議論することができるが、新たな考えをまとめることはできない。	自分の知識や意見をまとめ、他者と議論することができる	他者と議論するための準備として、自分の知識や意見をまとめることができない。	
				4年	43.3%	40.0%	13.3%	3.3%
		3年	37.5%	31.3%	31.3%	0.0%		
		2年	27.3%	41.8%	30.9%	0.0%		
		1年	18.2%	42.9%	36.4%	2.6%		
		全体	27.8%	40.2%	30.4%	1.5%		

# 思考判断

現実を直視し、理想と現実の問題を発見し、解決ができる

判断力	多様な現実の直視、物事の本質の見極め	多様な現実を直視し、起きている事象を分類整理し、検討すべき本質を見極めることができる。	多様な現実を直視し、起きている事象から、問題となるポイントを見出し整理することができる。	多様な現実を直視し、起きている事象を正しく理解することができる。	多様な現実を直視することができない。
	4年	36.7%	56.7%	3.3%	3.3%
	3年	12.5%	62.5%	25.0%	0.0%
	2年	14.5%	49.1%	36.4%	0.0%
	1年	10.4%	53.2%	35.1%	1.3%
	全体	16.0%	54.1%	28.9%	1.0%
課題発見能力	本質的な課題の見出し	現実を直視し、的確な基準や指標を活用して本質的な課題を見出すことができる。	現実を直視し、的確な基準や指標と比較することができる。	現実を直視し、問題点の発見につながる情報収集と取捨選択ができる。	現実を直視し、問題点の発見のための情報収集ができない。
	4年	36.7%	43.3%	20.0%	0.0%
	3年	18.8%	56.3%	25.0%	0.0%
	2年	12.7%	56.4%	30.9%	0.0%
	1年	11.7%	54.5%	31.2%	2.6%
	全体	17.0%	53.6%	28.4%	1.0%
課題解決能力	課題解決のための方策立案・実行	課題解決のための方策を立案し、計画を実行することができる。	課題解決のための方策を立案することができているが、実行することはできていない。	課題解決のための方策を考えることができているが、まとめることができていない。	課題解決のための方策を考えることができていない。
	4年	40.0%	56.7%	3.3%	0.0%
	3年	37.5%	53.1%	9.4%	0.0%
	2年	18.2%	60.0%	20.0%	1.8%
	1年	15.6%	58.4%	26.0%	0.0%
	全体	23.7%	57.7%	18.0%	0.5%

<b>関心 意欲</b>	専門領域にとどまらず、幅広く学問的好奇心を持つことができる	<b>広範力</b>	<b>専門領域以外の幅広い分野への関心</b>	専門領域以外の書籍の精読(2冊以上/年)、セミナー参加(2回以上/年)、またはそれ以外のいずれかの活動を2回以上行っている。	専門領域以外の書籍の精読(1冊/年)、セミナー参加(1回/年)、またはそれ以外のいずれかの活動を2回以上行っている。	専門領域以外の勉強を1年のうちに2回以上行っている(方法・内容は問わない)。	専門領域以外の勉強は行っていない。
			4年	10.0%	36.7%	43.3%	10.0%
			3年	3.1%	21.9%	37.5%	37.5%
			2年	9.1%	29.1%	30.9%	30.9%
			1年	6.5%	24.7%	31.2%	37.7%
			全体	7.2%	27.3%	34.0%	31.4%
			<b>知的好奇心 力</b>	<b>知的好奇心の所持と意欲的な行動</b>	意欲的に授業に参加し、与えられた課題以外の学修時間を十分に持て、新たな学びができています。	意欲的に授業に参加し、与えられた課題以外の学修時間を少し持つことができています。	意欲的に授業に参加し、授業時間は集中して過ごせることができています。
	4年	33.3%	40.0%	26.7%	0.0%		
	3年	21.9%	43.8%	31.3%	3.1%		
	2年	16.4%	50.9%	32.7%	0.0%		
	1年	14.3%	44.2%	40.3%	1.3%		
	全体	19.1%	45.4%	34.5%	1.0%		
<b>態度</b>	現状に甘んじることなく、より高きを目指すことができる	<b>未来へと学び続ける力</b>	<b>常に自分を高めようと努力し学び続ける姿勢</b>	常に自分を見つめることを習慣とし、一歩ずつでも前進できるように努力を続けることができています。	週1回は自分を見つめることができ、少しずつでも前進できるよう努力を続けることができています。	月1回は自分を見つめることができ、少しずつでも前進できるよう努力を続けることができています。	自分を見つめ、前進を目指した努力を行うことができていない。
			4年	23.3%	53.3%	20.0%	3.3%
			3年	15.6%	37.5%	43.8%	3.1%
			2年	12.7%	41.8%	45.5%	0.0%
			1年	18.2%	36.4%	41.6%	3.9%
			全体	17.0%	40.7%	39.7%	2.6%

# 技能 表現

獲得した知識・スキルを、  
国家・社会・  
地域のために  
活用することが  
できる

表現力	獲得した知識・スキルの他者への適切・適格な表現	自分の知識・スキルを活用して表現し、相手との良好なコミュニケーションができています。	自分の知識・スキルを活用して自分なりに表現することができています。	自分の知識・スキルに関することを吟味し、何を伝えたいかを考えることができています。	自分の知識・スキルに関することを人に伝えるための表現ができていない。
	4年	26.7%	50.0%	20.0%	3.3%
	3年	34.4%	37.5%	25.0%	3.1%
	2年	21.8%	36.4%	40.0%	1.8%
	1年	20.8%	37.7%	40.3%	1.3%
	全体	24.2%	39.2%	34.5%	2.1%
社会貢献力	獲得した知識・スキルを活用し、国家・社会・地域への貢献	獲得した知識・スキルの活用により、国家・社会・地域で起きている問題や更なる発展に貢献した活動に、獲得した知識・スキルを活用した主体的な活動ができています。	国家・社会・地域で起きている問題や更なる発展に貢献した活動に、獲得した知識・スキルの活用を考えていることができています。	国家・社会・地域で起きている問題や更なる発展に対し、自分が貢献したいという意欲を持つことができています。	国家・社会・地域で起きている問題や更なる発展と自分の活動を関連づけて考えることができていない。
	4年	23.3%	43.3%	26.7%	6.7%
	3年	25.0%	37.5%	31.3%	6.3%
	2年	9.1%	32.7%	54.5%	3.6%
	1年	9.1%	28.6%	53.2%	9.1%
	全体	13.9%	33.5%	45.9%	6.7%

## 全体の特徴

1. 基礎知識、専門知識、情報収集力・課題解決能力といった基礎的・実践的な力は総じて高い水準にあり、多くの項目でレベル3・4の合計が8～9割に達している。特に専門知識、情報収集力、課題解決能力は良好な達成状況にあり、学修成果が着実に定着していることがうかがえる。

特に協働研究セミナーなどが寄与しているのだろう。

2. 一方で、相互議論力、判断力、課題発見能力では、レベル2の割合が比較的高く、能力の個人差が大きい傾向にある。
3. 関心・意欲では、知的好奇心は比較的高い水準にあるものの、専門外への関心(広範力)は低く、受動的な学習姿勢にとどまる学生も一定数存在する。

## 全体の特徴

4. 「未来へと学び続ける力」はレベル2が4割を超えている。主体的・継続的な学修への意識の向上が、今後の課題である。
  5. 技能・表現において、表現力が比較的高く、一定のコミュニケーション能力は身につけている。一方、社会貢献力は「関心・意欲」にとどまる層が多く、実践的な行動へと結びついていない学生も少なくない。
- 総じて、知識、技能、課題解決力は高水準である。しかし、主体性、対話力、社会的実践力を伸ばしていくことが、今後の課題であろう。
- 正課活動のみならず、GC学科のさまざまな課外活動に参加すべし。

# では、どうすべきか

- 確かに大学での学修がすべてではない。
- だが、みなさんは大学に多くの時間とお金を投資している。
- あなたは、大学での学修をどのように位置づけるべきか。